

多賀小だより



【学校 HP アドレス】 <http://www.kyoto-be.ne.jp/taka-es/cms/> 第2号 令和2年4月30日(木)



1本の電話と赤ペンで



井手町立多賀小学校
校長 中島 禎宏

職員室では、かわるがわる担任の先生たちが、子どもたちの家に電話をしています。「家での子どもの様子は、どうですか」「学習の課題は進んでいますか」「子どもとかわってもらえますか」

担任と、ほとんど顔を会わすこともできずにスタートした新学期。電話をしても子どもと担任との会話は、なかなか弾むことはありません。それでも、担任は、明るい声で「身体の調子は、どうや?」「勉強、わかるか?」「家で、何してんのん?」と話を続け、受話器から伝わる声のやり取りで、子どもと心を通わせようとしています。「ほな、また電話するしな、頑張りや!」の声で電話をきり、次の子どもの家にまた電話をかけます。電話が終わると、担任は1週間分の課題のまる付けをします。プリントやノートには赤ペンで「よく、がんばったね」「ここが、すごくよかったよ」「次はこうするといいよ」と子どもの気持ちをつなぐ言葉が書かれています。

子どもも不安、親も不安、教師も不安、みんなが不安です。担任からの1本の電話と赤ペンでみんなの不安が少しでも〈まし〉になってくれればと思っています。

「はやく、みんなと会いたい」「はやく、みんなと遊びたい」「はやくみんなと勉強したい」みんなの思いは一緒です。その思いを胸に1日1日を乗り切ってください。

学校が再開できる日が来れば、みんなで運動場を全力で走り、教室で笑い合い、おいしい給食のカレーやきなこパンをみんなで口いっぱい頬張りましょう。

保護者の皆様、地域の皆様、この間のご協力に感謝いたします。そして医療に従事する皆様、最前線で働く人たちに感謝いたします。学校も感染防止に最善を尽くし、1日でも早く学校再開ができるよう努めてまいります。

